

## コウノトリの野生復帰

オリエンタルホワイストークとして知られるコウノトリは、豊岡の湿地帯や農地でよく見られていた鳥でした。堂々とした姿のこの生き物は日々の生活の中で人と共存し、自然の生息地のエコシステムに調和して暮らしていました。

第二次世界大戦後に導入された農耕維持、米の生産、川の改良など様々な農業方式は、コウノトリ個体数の着実な減少を引き起こしました。繰り返し大量に使われた農薬も、その一端を担いました。さらに、コウノトリが巣を作っていたアカマツが木材として切り倒されました。エコシステムにおけるこの急激な変化はコウノトリ個体数に劇的な影響を及ぼし、日本で生きていた野生の個体は絶滅したことが1971年に公表されました。

コウノトリ数の急減を受け、この鳥をエコシステムへ取り戻そうと豊岡市が飼育下繁殖プログラムを開始したのは1964年のことです。環境に配慮した農耕技術や持続可能な環境の設立を含む40年間の努力の結果、同プログラムはこの地域へコウノトリを返すことに成功しました。地元コミュニティの再野生化努力によって、鳥たちは自然環境下で育つことができるようになりました。現在、約160羽のコウノトリが豊岡地域周辺で生き延びています。

## コウノトリ（オリエンタルホワイストーク＝コウノトリ）：幸せの象徴

地元民は、コウノトリを幸せを運ぶ鳥としてみています。この大切な鳥を取り戻そうという運動、そして豊岡の人々とコウノトリがもう一度共存していけるという事実は、コミュニティの物の見方に影響を及ぼしました。そしてそれが、より健康的でより持続可能なエコシステムを生み出したのです。

コウノトリの翼幅は桁外れで、2メートルにも伸ばすことができます。大きな体（およそ1.1メートル長）に長く黒いくちばし、赤い脚、黒で縁取りされた白い羽が特徴です。その大きさ、そして白い体に対して目立つ黒い羽のため、コウノトリはサギや白サギなど周辺地域のその他の鳥と比べると簡単に見分けられます。

コウノトリを一目見たいという訪問客は、兵庫県立コウノトリの郷公園を訪れることができます。豊富な資料を収蔵したこの博物館では詳細を学ぶことができ、また鳥たちが日々餌を食べているオープンページの見える、観察エリアもあります。豊岡周辺の稲田や空き地では、周りを見渡すようにしてみてもよいかもしれません。運が良ければ野原で餌を啄ばむ姿か、あるいは晴れた日に空を飛んでいるところが見られるでしょう。